

ふくしま 再生 短信

歴史と文化を紡ぐ

永徳さんと歩く



1



佐須小学校 校歌と校章

校歌制定は1966年、体育館落成の年でもある。校章制定は1970年。7年後に閉校になった。校歌と校章が制定されいよいよ村の学びのセンターとして小学校が再生した矢先の出来事であった。農村でも都市でも学校の統合と閉校は今に続いている。規模の利益・経済性追求の流れは止まらない。（上の写真は100年祭記念の校章メダル）



5



4



3



2

【背景写真】佐須小学校の校舎、校庭に向かって大きな校章のプレートが立つ。【カット写真】1. 「福島県相馬郡飯館村立佐須小学校」門柱、寄贈・菅野ヨシイ殿。2. 佐須小学校沿革史年表石碑前に立つ永徳さん、石碑寄贈・久米フミ子氏。3. ケヤキの記念植樹前に「東京慈恵会医科大学疫学研究会記念碑」、疫学研究会部長・部落代表に続いて「保健委員・菅野永徳」の名あり。4. 佐須小体育館で行われてきた農業祭、記念の野球帽は校章のデザイン。5. 校章プレートに見入る永徳さん。

2019年9月22～23日、旧佐須小学校の校舎跡を卒業生の菅野永徳（ながのり）さんと歩いた。旧道から校庭に下る小径には今も洒落たタイル張りの門柱が立つ。佐須小学校の始まりは明治九年（1876年）の「玉野簡易小学校佐須支校」にまで遡る。菅野弥治兵衛氏の屋敷

内の開設。今から143年前、村民の並々ならぬ学びへの熱意が石碑に刻まれている。石碑を寄贈した久米フミ子さんは佐須で33年間教鞭を執り、学校が共同体と一つになっていた時代を象徴している。ケヤキの記念樹が残る医学生との交流は当初大学の研究上の関心か

らのスタートで、10年以上に及ぶ村民の定期検診へと発展し、60名の見学団を東京の医大に送ることもあった。小学校は検診会場であり、村の農業祭の会場でもあった。昭和52年（1977年）、創立百年祭記念式典の年が閉校の年になった。（撮影・文責：若林一平）